

八戸

「平成」テーマ
砂の像を創作

白浜海岸で八学短大生
八戸市の八戸学院大学短期大学部(法官新一学長)は6月27日、同市の白浜海岸で、テーマに沿って思い思いに砂の像を制作する「砂浜彫刻実習」を行った。幼児保育学科の1、2年生約225人が参加し、砂まみれになりながら仲間たちと協力して作品を作り上げた。
実習は、保育士を志す学



協力して砂の彫刻を制作する学生たち

生たちが、子どもたちの協
調性や創造性を育むとされ

る砂遊びを教える際に役立
つように、2006年から

砂に海水をかけ足で踏み固
めて土台を作ると、手やシ
ヤベルで細部を造形。波打
ち際の貝殻や海藻を飾り付
け、約3時間かけて平成生
まれのキャラクターや流行
したゲーム機などを完成さ
せた。

実施してい
る。今回は来
年4月30日に
平成の時代が
終わることに
ちなみ「平成」
をテーマとし
た。
あいにくの
雨となったも
の、学生た
ちは所属する
ゼミごとに15
班に分かれ作
業に励んだ。
掘り起こした

昭和からの元号変更時、
小渕恵三官房長官が発表会
見で「平成」の書を掲げた
場面をイメージし、「平成」
という文字そのものを砂で
表現した木村葉月さん(19)
は「将来は子どもたちと遊
びながら想像したり協力し
あつことの大切さを伝えた
い」と話した。(高松拓輝)